

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	建築アーカイブズ小委員会		主 査 名：山名善之 就任年月：2010 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠本委員会		委員長名：谷 直樹 主 査 名：
設 置 期 間	2010 年 4 月 ～ 2014 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・我が国において、よりよい生活環境の創成のために、都市及び建築環境の変容の過程と現状を認識する必要性はますます増大している。建築文化に係わる史資料の収集・整理・公開のための「建築アーカイブズ」環境の整備は喫緊の課題となっている。本委員会は、「建築アーカイブズ」環境の整備に必要な一次保管施設の設置を推進し、併せてアーカイブズ・ネットワークの確立と、収集・整理・公開のための共通の方法論を検討することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(2010)国内建築資料の状況調査および建築アーカイブズの問題点整理</li> <li>・(2011)国内状況調査・資料整理方法論の研究および事例調査</li> <li>・(2012)国内状況調査・資料保存方法論の研究および事例調査</li> <li>・(2013)建築アーカイブズ・コンソーシアム形成のための方法論研究</li> </ul>		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無し</p> <p>主査：山名善之(東京理科大学) 幹事：山崎鯛介(千葉工業大学)、戸田穰(東京理科大学) 委員(五十音順)：加藤雅久(居住技術研究所)、桐原武志(AALab./芦原建築設計研究所)、倉方俊輔(西日本工業大学)、志岐祐一(日東設計事務所)、鈴木博之(青山学院大学)、笠覚暁(金沢工業大学)、津村泰範(文化財保存計画協会)、藤岡洋保(東京工業大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2010 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	<p>1. 2010 年度日本建築学会大会(北陸)建築歴史・意匠部門研究懇談会「近・現代建築のアーカイブスとドキュメンテーション」(2010.09) 参加者数 10 名中 本小委員会より 5 名が参加 (資料名)『近・現代建築のアーカイブスとドキュメンテーション』同資料に、本小委員会より 8 名が寄稿した。</p>
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 国内建築資料の状況調査：先に刊行した『日本における建築アーカイブズの構築に向けて』（2007年3月）を受けて、以後今日まで継続的に国内建築資料の状況調査に努めた。前述の2010年度大会研究懇談会および同資料に、現在までの成果をまとめ、国内資料の発掘・状況把握に一定の達成をみた。</p> <p>2. 建築アーカイブズの問題点整理においても、同様に2010年度大会研究懇談会および同資料にて、課題となるテーマを本小委員会メンバーが発表・寄稿した。</p>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<p>1. 国内資料調査の状況調査から、現在整理が進行中の資料、ならびに今後の保存・整理が課題となる資料が一定量、リストアップされた。今後は、これら諸建築資料間の情報共有のためのプラットフォーム構築のための、整理方法論の整備と共有が課題となる。</p> <p>2. 課題1の課題に応えるための、資料整理の方法論ならびに保存方法論についての諸問題も、上記2建築アーカイブズの問題点整理において明らかとされた。今後は、諸問題についての具体的な調査・研究を進めることが課題となる。</p> <p>以上二点を2011年度以降の本小委員会の活動目的に据えるとともに、併せて建築アーカイブズの組織運営に係る調査を行う。</p>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。